

学校と住民の連携・協力による避難所運営と学校再開の軌跡

～住民による自治組織の確立と学校の役割～

山元町立坂元中学校

「どんなことが起こったのか」

【3. 1 1. 地震発生当日の状況について】

午前中卒業式だったので生徒はすべて下校していた。午後2時46分、ものすごい揺れが起こる。女子職員は立っていられず転んでしまうほど。震度6強、M9と後に発表になる。

すぐに学校に住民が集まってくる。停電し、電話も通じない状況で、校庭には避難の車が続々と集まって来る。防災無線も全く聞こえない。職員で避難者の対応をする。約1時間後の3時50分頃、避難してきた男性の「津波で中浜地区の家がみんな流された」という情報を聞き、避難者約550人を校舎2階と3階に誘導し避難させる。

3階のベランダから見た校舎北側は、がれきとともに白波が立ち、バキバキ・ゴォーという轟音を立てて、一面が海と化している。第3波・第4波の波の壁が迫って来るのが見える。高さは10メートルをはるかに越えると思われるほどの高い壁で、引き波によって消されたが、とてつもない大きさであった。

坂元中学校のグラウンドまでは水は上がらなかった。校舎に避難者を上げ、校舎が避難所となる。犬・猫などのペットも入る。

職員が物資の調達を行う。体育館より畳50枚、マットなども各教室へ運び入れる。

山手の地区より炊き出しが届く。おにぎり数十個と野菜。職員室のストーブを使って味噌汁を作る。

けが人が多数運ばれてくる。低体温、がれきでけがをした人が多かった。

職員の着替え、運動着、ありとあらゆる物を提供する。毛布が足りないのでカーテンも利用した。

医薬品とスタッフが絶対的に不足しており、医療関係者が欲しかった。本校の養護教諭が大変な働きをした。役場職員は駆けつけていたが、病院・消防署・役場などと連絡が取れず、大変な状況であった。

夕方6時には真っ暗な状態となる。学校にあったろうそくを配置。(次の日からガラスコップにロウを溶かしてろうそくを自作する。数日後からは避難していた中学生の日課とする)

低体温でその晩に亡くなった方が2名。和室に次の日まで安置する。一晩中、救出された人が搬入されてくる。

夜12時と朝方3時、職員がろうそくの点検をする。

すべての物が不足している。寝具・水・食糧・衣服・防寒着・靴・靴下・タオル・ミルク・生理用品・消毒薬・乾電池・ろうそく・・・等々

【3. 1 2. 次の日の状況について】

野戦病院の状態。人の出入りが激しく、整理がつかない状態。低体温症状だけでも25名。重傷者を病院に運びたいが救急車来ず。

「起こったことに対してどのように対応したのか」

【翌日からの避難所運営について】

* 避難所として 550 人以上の人が学校に避難していたが、町からの指示は一切無かった。校長の判断で運営。

校長の主な仕事

- ・ 重症患者の対応の決断
- ・ 食糧調達
- ・ 炊き出しの指示
- ・ 本部長との協議
- ・ 避難者の待遇改善
- ・ 支援物資の受領
- ・ 支援者対応 挨拶
- ・ マスコミ対応
- ・ 慰問関係対応
- ・ 役場 自衛隊 警察 対応
- ・ 校舎等施設管理

等



* 教師は二人一組になって生徒の安全確認に学区を歩く。この時点で2名の安否確認が取れない状態。

* 必要な物資の調達を行う。ろうそく・毛布・布団など、避難者の軽トラックを借りて近所を歩く。

【3. 13～2・3日後からの様子】

・ 車上荒らしの情報があったため、職員室前の駐車場入り口でたき火をしている人に話をしたらその日から 24 時間火を消さないようにし、夜警を引き受けてくれた。→自分たちのことは自分たちでやるという思い。

・ 駐車場整理 (初め職員が行っていたが、避難者の中から自分たちがやると申し出るようになり、任せることにした)

・ 運営の方向性を決める。

職員の仕事・・・ゴミの分別処理, 焼却, 灰処理, 駐車場誘導

炊き出し, 清掃, 掲示, 備品配置, 備品管理, トイレの管理

避難生徒の指導

連絡, 1日のスケジュール提示

ボランティアの仕事・・・炊き出し, 配膳, 食器洗い

支援物資運搬, 駐車場誘導

夜警, 夜のたき火, 薪割り

* 班長・副班長を決め, 自治組織を作る。連絡の徹底。



【4～5日後から】（3月17日から電気が復旧する）

- ・3月16日から町の保健師が来る。
- ・3月17日より七ヶ宿の保健師が来る。
- ・スケジュールを作って1日の生活のリズムができるようにした。（班長会で申し合わせる）
6時30分から掃除→自主的に外の仮設トイレや早朝の3時から掃除をしている人もいた。

【4月3日】体育館に避難所を集約する

200人ぎりぎりに入る設計で収まる。準備したパーテーションは余り使われなかった。隣近所の人との気持ちのつながりが深い。

<良かった点>

- ・日課表を作る。リズムある生活を送る上で非常に有効であった。
- ・**避難所の運営と本部の考え方の確認を行う。**本部長は町の職員とした。学校職員は補佐役に徹し、二つの大きなコンセプトを打ち立てた。

「避難者のためになることだけを考えてやる」

「支援する側と支援される側の関係を作らないようにする」

この二つを確認し、避難者の班長、部屋長に理解をしてもらい、みんなで運営するという考えを徹底した。

・職員室と校長室、給食室は開放しなかった。最初職員室を使わせて欲しいという申し出があったが、職員室・校長室・給食室・保健室を除いては土足だったこともあって、保健衛生面からも考えて職員のみでの使用にしたことは、職員の精神衛生上も良かったことであつたと考える。

・ゴミについては学校の焼却炉を使って燃える物はすべて燃やした。その日のゴミはその日のうちに処理をするようにしたことが衛生管理上よかった。生ゴミは乾燥させて穴に埋めた。

・調理室を使用して町職員とボランティアによる炊き出しを行った。自衛隊による炊き出しは朝・晩でおかずはなしであったが、本校の避難所では3食出し、おかずがあった。

<考えられる反省点・改善点>

- ・ゴミの分別。
 - ・校内での喫煙。
 - ・トイレの使い方（すぐ詰まってしまった）
 - ・感染症（インフルエンザ等）もあったので隔離する部屋が必要。
 - ・犬猫等の動物の飼い方について（アレルギーの人もいるので別部屋にする）
- 動物に癒される人もいたことは事実
- ・すべて土足の状態。



「それによりどのような課題が浮き彫りになったのか、どのような反省点があるか」

【当日の対応に関する反省点】

3月11日の2日前、9日に震度5弱の地震があり、50センチの津波情報があったのだが、津波は来なかった。1年前のチリ沖地震の影響で仙台港で1メートルの津波があったときも避難者は数十名いたようだがたいしたことはなく、津波に対する警戒心が低かった。

指定の避難所になっているにも関わらず、備蓄の物は何もなかった。毛布は30～40枚あったが、水・食糧は皆無の状態。乾電池もなかった。学校にある備品のラジカセも乾電池を入れずにコンセントで使っていたので、乾電池が絶対的に足りなかった。ラジオの災害情報をすぐに聞けなかったことは反省点としてあげられる。

【避難所になってからの反省点】

支援の方の開催するバザーなど規模が予想できず、駐車場や外部の人の混雑で、避難所に実際にいた人が迷惑をする場面もあった。バザーでは宣伝しすぎると被災者以外の方も来ることがあり、本当に避難所のためになっているのかどうか疑問が残る場合もある。支援の内容の見分け方が難しいところがある。

支援物資の配布について、学校では被災した生徒をしっかりとつかんでいるが、実際に行事やPTA等で支援物資を配布する場合は、保護者や一般の人が来るので区別がつきにくい。その際の支援物資の配布の仕方について、また、配布しきれなかった場合の物資の処理については悩むところである。



たくさんの避難所の方々に参加していただいた入学式

【4月4日以降】学校の再開までと避難所としての役割

学校が避難所となってから職員が交代で泊まり込みをしていたが、4月の4日以降職員室への泊まり込みは少なくなった。万が一地震があった場合に津波のことを考えて、校舎3階に避難できるよう、校舎の正面玄関の鍵を町の職員に貸し出した。

4月7日に大きな余震があり、一時停電になり、生活が安定しかけてきたところでの地震だったので大きな打撃であったが、電気は次の日復旧し、安心した。水道については断水にならなかったのが救いである。

校舎の清掃計画に従って、連日校舎内の清掃・除菌等、学校再開に向けて始動した。その際、愛媛県から派遣されていた養護教諭の方々には大変お世話になった。生徒のボランティアで廊下の拭き掃除・除菌・トイレ掃除等を行った。

体育館避難所の運営の方は町の方に任せて、職員は学校の再開に向けての活動に専念することができた。が、「1日1回は避難所に行き、被災者の様子・生徒の様子を見る」という学校と避難所は共同体であることの精神を貫くよう、校長より指示した。

避難所の方ではすでにしっかりと自治組織が確立しており、学校の玄関掃除等まで率先して行っていただいた。避難所におられる方々も、学校の教育活動が円滑に行われることを第一に考えていらっしゃる事がわかり、子どもの姿に元気づけられていることが伺えた。特に避難所としては電話の取り次ぎや、支援の調整などを町の職員と連携を図って行った。

連日支援物資や、支援の訪問等あり、その対応に追われることがあったが、おかげで大分物資面についてはそろって、被災した生徒も、学校生活を始めるのに不足がないところまで来ることができた。地域への呼びかけにより、制服・ジャージ・学習用具などの支援物資も集まり、特別教室に並べて、日にちを決めて、被災した保護者の方に配布した。

4月25日始業式、26日入学式を挙げる。入学式には避難所から30名ほどのからに列席していただく。皆、生徒達の立派な姿を見ることで、地域の未来への希望を見いだしていたように感じられる。列席していただいたことに厚く感謝したいと考える。

5月25日体育館からすべての方が移動される。(仮設住宅・坂元支所等へ)5月28日には50人以上の大勢の方が体育館の清掃にきていただいた。6月より通常に体育館を使用できるようになり、中総体に向けて短い期間ではあるが練習することができた。

避難された住民の方々には、生徒の学習についてなど特に心配していただいた。夜、学習するスペースを設けられないかということで、図書室等の開放も行っていった。仮設住宅に移動してからも、自由に集会所を開放し、民間の学習塾の支援を受けていただき、常に、支援をしていただいたことに感謝している。

【震災を経て、これからの学校に求められること】

<防災マニュアルの見直しと徹底>

・かなりの沿岸部であるにもかかわらず、地震対策のあとの津波の対策が不十分であった。二次避難所を決定し、地震の際の二次避難についての訓練を行った。さらに、教室からの避難訓練だけでなく、さまざまな活動を想定しての避難訓練が必要。(休憩時間・部活動時間等、マニュアルを作成するだけでなく実際に動いて訓練することが重要)・・・訓練一つ行うのも手間取っている状態→靴の履き替えや移動など、もっと円滑に当たり前に訓練できる状況にしなければならない。また、出張等で人手不足の場合でも、自分の役割以外のものも補えるような柔軟な動きができるような教職員の訓練が必要である。

<保護者との連携>

・震災後すぐに保護者へのメール配信を手配。現段階で登録状況は80%なので、もっと登録率を上げるよう呼びかけたい。台風や不審者情報等で役に立っている。
・保護者へ災害があった場合の学校への連絡方法と引き渡しについての取り決めに周知した。(ラミネータで加工した物でひもをかけて電話などの近くにかけて置いてもらえるようにしたもの)

・常に生徒の安全を第一に考え、保護者の安心を得るようにする。たよりやメール配信等で情報を細やかに提供することを心がける。

＜避難所になることを想定しての備蓄・連絡システムの徹底＞

・今後の課題として、避難所になった際の備蓄品の補充を行政にはお願いしたい。水・食糧等、今回、町・自衛隊の炊き出しの支援が来るまで3日はかかっている。それまで近くの農家等からの協力はあったが、3日分くらいの保存食は早急に準備をお願いする。その他、毛布・乾電池・ラジオ・タオル等の必要最低限の物も、すぐ使用できるよう準備が必要。

・生徒の安全確保の他に、避難してくる住民の対応も冷静に行う必要がある。震災後、作成したマニュアルには役割分担を設けてあるが、実際には訓練できていない状況なので、その部分の徹底を図る。

＜地域の中で生きる・地域貢献を第一義に考える学校＞

地域との協働教育の一層の推進

・今回の震災を経て、地域との協働の重要性が一層浮き彫りとなった。例えば、被災によって学区外・町外から保護者の送迎によって登下校している生徒の待っている時間や場所の提供について、この様な状況なので、何時になるか分からないような場合もあると保護者からの不安の声が当初あった。PTAの方にも心配していただいたが、連絡カードなどを利用して大過なく過ごした。今後、勤務時間外の生徒保護の対応をどのように取っていくか、地域の組織との連携を図って検討する必要がある。

・生徒の学力の保障を地域との協働で

避難所にいたときはもちろんのこと、仮設住宅に入っている生徒、学区外・町外のアパートから通っている生徒の時間と学習環境の保障は大きな課題である。場所を確保して、地域との協働によって、生徒の学力を保障する必要がある。その場合、人的な支援は地域にゆだねるにしても、学力に関するイニシアチブは学校が取るべきと考える。教職員の負担増にならないような配慮をしながら、どういった支援をもらうかを学校側が提供し、それに必要な人材・教材その他を地域に支援してもらうシステムを早急に構築する必要がある。交通網が打撃を受け、高校進学や将来に対する不安が大きくなっているこの現状だからこそ、学校だけでなく、広く生徒の学力を支える環境が今最も求められていることと考える。

このことについては学校だけで解決できる問題ではないので、より地域との連携を深めながらPTA・生涯学習課・行政区長等との親密な関係を築き、学力向上を主眼にしたシステム作りに前向きに取り組んでいきたいと考える。